

# アスナビ

トップアスリートと企業をマッチング

トップアスリート採用にご興味をお持ちの方は、  
こちらまで  
お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

JOCキャリアアカデミー アスナビ担当

E-mail: [career@joc.or.jp](mailto:career@joc.or.jp)

Tel: 03-5963-0354

発行 公益財団法人 日本オリンピック委員会

# アスナビ

トップアスリートと企業をマッチング

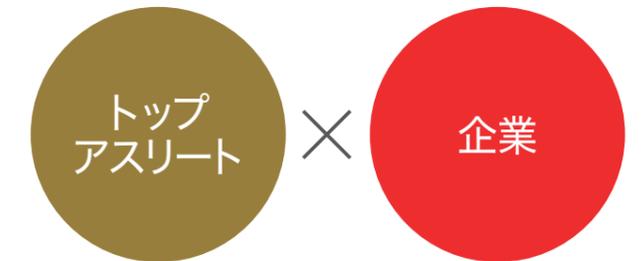
トップアスリートの  
就職支援ナビゲーション



公益財団法人 日本オリンピック委員会

# アスナビとは

「アスナビ」とは、2010年10月にスタートしたJOCの就職支援制度です。生活環境を安定させながら競技活動を続行したいと考える現役のトップアスリートと、それに理解を示してくださる企業とをマッチングし、スポーツ界と産業界に“Win-Win”の関係をつくることを目指しています。なお、2014年8月、日本パラリンピック委員会(JPC)と協定を結び、パラリンピックを目指すトップアスリートの就職支援も実施しています。



「人間力なくして、  
競技力向上なし」  
アスリートならではの  
経験や能力を  
社会に還元し  
スポーツ界と産業界に  
“Win-Win”の関係を



公益財団法人  
日本オリンピック委員会(JOC)  
会長  
山下泰裕

## ごあいさつ

JOCキャリアアカデミーでは、トップアスリートが安心して競技に取り組める環境を整えるために、さらには、引退後のキャリア設計について共に考え、支援するために、多岐にわたる活動を展開してきました。

その中で、企業のサポートを望む現役のトップアスリートと、競技活動に理解を示してくださる企業とを結ぶ就職支援制度「アスナビ」の活動を2010年10月にスタート。経済同友会や日本経済団体連合会、各商工会議所などの経済団体や地方自治体、企業の皆さまのご理解のもとで拡充してきました。また2014年より日本パラリンピック委員会(JPC)と協定を締結し、パラリンピックを目指すトップアスリートの就職支援も実施しています。

現在、オリンピック・パラリンピックを目指す300名を超えるアスリートが採用されています。これまで競技以外の世界と接することの少なかったアスリートたちは、「アスナビ」を通じた就職活動によって自分自身と向き合い、さまざまな支えのもとで自分がいるのだという気付きや社会人としての自覚

が芽生え、競技を続けることの意味や価値を問い直す絶好の機会となっています。企業の皆さまにとっても、世界を相手に真剣に立ち向かうトップアスリートの姿が、大きな刺激となり、活力になっていると確信しています。

私が柔道を始めたきっかけは、「単に、勝ち負けを競ったり、技術、体力を磨くだけではない、人を成長させ育ててくれる」と考えた両親のすすめでした。アスナビで就職したアスリートが、それまでの経験や能力を就職先企業へ貢献する姿は、恩師の教えの体現であり、競技の第一線から退いた後に属する、次の社会にも通じます。そのため、私は会長として「人間力なくして、競技力向上なし」という指導方針を引き続き掲げていきます。

現役時代の一分一秒は、競技者としてはもちろん、人としての奥深さも獲得できる大切な時間です。このように培われたアスリートならではの経験や能力が社会に還元され、スポーツ界と産業界の間に“Win-Win”の関係が築かれることを願っています。

## 採用のメリット

### 一体感の醸成

アスリートを同僚として応援することで社内一体感が醸成される上、アスリートの活躍が社員の士気を高揚させ、会社の活性化につながります。

### 会社の変化

トップアスリートが、「何らかの形で会社に貢献したい」と感じ、積極的に業務に関わっていくことで、社員に刺激を与え、組織に変化をもたらします。

### イメージの向上

トップアスリートを社員として採用し応援することは、スポーツを通じた社会貢献、CSRの一環として、企業イメージの向上にもつながります。

## アスナビ制度概要

### 無料 職業紹介事業

企業と現役のトップアスリートをマッチングするJOCキャリアアカデミーの就職支援制度であり、サービス利用について費用はかかりません。  
(厚生労働大臣許可番号 13-ム-300090)

### 正社員または 契約社員での雇用契約

社員(正社員、契約社員)としての雇用になります。この点で、広告や宣伝を目的に契約金を支出するスポンサーとは異なります。

### 競技活動費の 実質補助

「給料とは別に競技活動費、遠征費なども援助してほしい」といったアスリート特有の事情をご理解いただき、採用条件をご検討いただけます。

### 競技優先の 勤務体制

競技・アスリートによって出社日数は異なります。週3~4日出社できることもあれば、海外遠征が多い競技などでは年間20日程度の場合もあります。

# アスナビ説明会

アスナビでは、経済団体、地方自治体などとの共催による説明会を全国で実施しています。

## 全国各地で開催

東京をはじめ、大阪・愛知などでも

特に、地域連携により開催するアスナビ説明会は、地域に縁があり、世界を目指したいという選手を地元の企業が応援し、トップアスリートとして成長する姿と一緒に見守っていただくための貴重な機会となっています。

2021年10月 経済同友会との共同開催  
(ホテルグランドアーク半蔵門)



企業とアスリートが対面で直接会話し、情報交換できる貴重な機会

2016年9月 中部経済同友会との共同開催(名古屋キャッスル)



競技の魅力やルールなどを、実演を交えて紹介するアスリート

2019年10月 東京都との共同開催  
(味の素ナショナルトレーニングセンター)



多くの企業担当者が来場し、制度の説明やアスリートのプレゼンテーションに耳を傾けた

2018年9月 横浜市、横浜商工会議所、横浜市体育協会との共同開催(横浜シンボリア)



名刺交換では、企業担当者に自身の意気込みや特技を直接アピール

2019年5月 経団連との共同開催  
(経団連会館)



スクリーンに資料を映し、競技説明や自己PRをするアスリート

2017年11月 関西経済同友会との共同開催  
(関西経済同友会会議室)



説明会参加企業の皆さんの前でしっかりとプレゼンテーションするアスリート



バレーボールでソウル・バルセロナ・アトランタオリンピックに出場した大林素子さんがアスリートが企業に所属することの魅力を実演

## 大分

トップアスリートの就業で、大分を元気に!

大分県では、「アスナビ・チーム大分プロジェクト」を独自に運営しています。大分で育ったアスリートが世界の舞台上で活躍することで、大分に必ず大きな元気を与えてくれると信じて、推進しているのです。2014年10月に県とJOCの連携により全国で初めてアスナビ説明会が開催され、県内の企業53社67名が参加し、合計7名の選手が企業に内定しました。現在は、大分県内にある26の企業が「アスナビ・チーム大分プロジェクト」でトップアスリートの採用を検討しています。これまで、オリンピック・パラリンピックを目指す15名のアスリートがアスナビを通じて就職を果たしました。

2018年7月 第4回アスナビ説明会開催  
(大分市 ホテル日航大分オアシスタワー)



## よくある質問

### Q1 お金はたくさんかかる?

**A1** 必要なのは給与(同年代の社員に準ずる金額)+活動経費(競技によりますが、年間50万~400万円ほど)です。活動経費は一部負担でも構いません。平均で、給与含め年間約500万円ほどになります。

### Q2 スポンサーとの違いは?

**A2** スポンサーとは広告や宣伝を目的にアスリートに契約金を支出する広告主のこと。アスナビは、アスリートを「社員」(正社員・契約社員)として採用していただく制度で、企業側は、広告主ではなく雇用主となります。

### Q3 アスリートを迎え入れる準備は?

**A3** JOCが豊富なノウハウを生かしてサポートさせていただきます。入社準備や活用方法などの情報提供はもちろん、「応援の仕方」「配属先」「社内報・ホームページでの活用法」など具体的な質問にもお答えします。

### Q4 競技の引退後は?

**A4** 採用企業へのアンケート調査では、競技引退後も継続して会社に貢献してほしいという声を多数いただいております。現役時代から競技と仕事の両立や社会人としての成長を意識するための選手研修会を開催しています。

## 採用までの流れ

トップアスリートの採用に興味を持って、そうした経験やノウハウがある企業は多くありません。アスナビを通じた採用では、アスナビの担当者が多くの場面でサポートします。「前例がなく、どう採用し、どう迎え入れたらよいか分からない」という不安を解消します。



1 「アスナビ」をチェック

JOC公式サイト内の「アスナビ」ページにアクセスし、「登録選手一覧」より登録しているアスリートのエントリーシートをご覧ください。彼らは、所属する競技団体の強化指定選手や各団体が推薦するアスリートで、企業への就職を希望しています。



<https://www.joc.or.jp/about/athnavi/entrysheet/>

2 お問い合わせ

「興味のあるアスリートがいた」「もう少し詳しく知りたい」などの場合は、サイト内にある「お問い合わせ」フォームに必要事項をご記入の上、送信ボタンを押してください。お電話でのお問い合わせも承ります。

<https://www.joc.or.jp/general/form/athnavi/>

3 アスナビ説明会

「まずは就職を希望しているアスリートに直接会ってみたい」という場合は、「アスナビ説明会」にご参加ください。この説明会では、複数のアスリートの熱い思いや仕事への意欲を聞くことができます。左記「お問い合わせ」フォームからご連絡ください。



自分の言葉で働く意欲を伝えます

4 候補アスリート決定、会社訪問

採用を具体的に検討する段階になりましたら、アスリートが貴社を訪問します。アスナビ担当が原則同行して、企業とアスリート双方の理解を深めるお手伝いをします。さまざまな疑問や不安を解消すべく、一つ一つ丁寧にお答えしていきます。

5 面接・選考

貴社の選考手順にそって、面接や適性試験などを進めていただきます。アスナビ担当が、企業とアスリートの間に入り、面接日程調整や、意向確認、条件面などについてサポートさせていただきます。面接にも原則同行させていただきます。

6 内定・採用~入社

就業規則の整備、実業団の登録、ユニフォームの作成など、アスリートならではの各種手続きをアスナビ担当がサポートさせていただきます。メディアに向けて、ニュースリリースを発行したり、内定報告会を開催する場合もあります。

7 入社後

「応援の仕方」「アスリートの活用方法」などの質問にも、アスナビ担当が随時お答えします。採用企業参加の「企業情報交換会」も定期的に開催し、アスリート採用企業の事例共有やネットワークづくりのお手伝いいたします。

# 入社後サポート

アスナビではアスリートを採用した企業が集まって、採用後の活用事例を共有する「企業情報交換会」や、採用されたアスリートを対象に働く力を高める「選手研修会」、引退後のアスリート同士の交流である「アルムナイ活動」など、企業・アスリート双方が感じる不安を解消するためのサポートを行っています。

## 企業情報交換会

### ●テーマ別編(全採用企業対象)

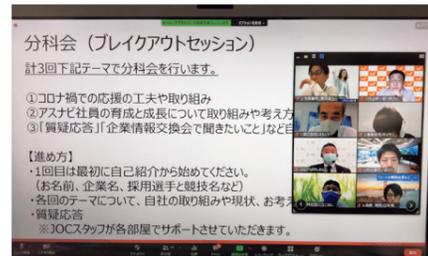
「応援の仕方」「アスリートの活用方法」「社会人としての育成」など、開催毎にテーマを掲げ、アスナビでアスリートを採用された全企業を対象に事例共有や情報交換、ネットワークづくりを目的に定期的に開催しています。好事例はもちろんのこと悩んでいることに対してもお互いに情報交換やアドバイスをしています。オンライン開催もまじえ、多くの参加企業から好評を得ています。

### ●競技別編

アスリートの競技別に、各競技団体の関係者を招き、採用企業との関係構築を図ります。競技団体のビジョン、強化育成方針や強化スケジュール、代表の選考基準などの説明から大会での応援の仕方まで、直接話を聞いたり意見交換ができる機会となっています。また同じ競技のアスリートを採用した企業同士で横の連絡が取れるようにネットワークづくりのお手伝いもいたします。

### ●新規採用企業編

アスリートを初めて採用した企業向けに、アスリートの活用事例のほか、勤務形態やアスリートとのコミュニケーションなど、既に採用実績のある企業から事例を紹介してもらう新規採用企業向けの情報交換会を実施しています。また、アスリートの活動経費についてや社内の受け入れ体制づくり、応援の仕方など、採用決定以降入社までに必要な情報も提供させていただきますのでお問い合わせください。

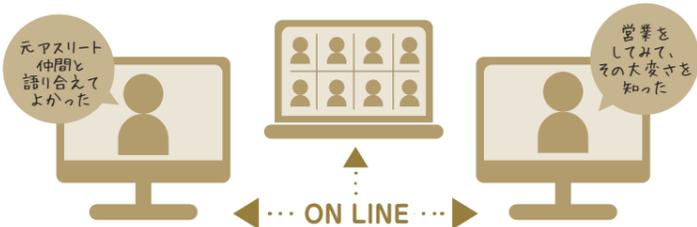


事例の共有では、アスリート社員応援の様子をスクリーンに映した写真や動画で紹介したり、各社で制作したオリジナルグッズが披露された。対面でもオンラインでも、部分的に分科会などを取り入れ、より具体的な各社の悩み相談や交流が進む機会となっている。

## アルムナイ活動

アスナビで採用された多くのアスリートが、競技引退後も同じ企業で働き続け、活躍しています。アスナビでは、そんな元アスリート同士の交流の機会を設けています。

アスナビのアルムナイ活動では、競技引退後に、競技から仕事へ軸足が変わることへのマインドセット、社会人として足りないビジネススキルをどう埋めていくか、困ったときに助け合えるような関係づくり、これまで努力してきたことを会社や社会の中で生かす方法、競技との継続した関わり方などを、互いに学びあい考えていくことを目指しています。



交流会では、先輩アスリートの講話や、互いの近況や現在の活動報告が行われています。参加者からは、「引退して営業活動をする中で、現役中に自分がいただいていた競技活動費用を稼ぐことがすごく大変だと初めてわかった。現役のうちにそれを知っておくことは大事だ」などの意見があり、多くの気づきを生んでいます。

## 選手研修会

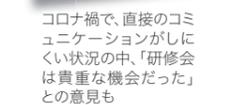
アスリートを対象にした「選手研修会」は、アスリート自身が「アスリート社員に求められる意識やふるまい」を学び考えると同時に、アスリート同士に競技を超えて横のつながりを持ってもらうことを目的としています。既に企業で活躍している先輩アスリートからの「アスナビ先輩講話」、「企業への貢献」、「応援されるアスリートになるためには」などのテーマで参加者同士で話し合うワークショップ、「プレゼンテーション」「インテグリティ」のスキルセミナーなどがこれまで開催されており、「ぜひまた参加したい」という声を数多くもらっています。



ワークショップでは、グループに分かれてディスカッション。ふせんに書き出ししながら、具体的な今後のアクションプランを考えて発表しました。



夏季競技、冬季競技、パラリンピック競技など、さまざまな競技のアスリートが集まり、ともに学んだ。参加したアスリート同士の「横のつながり」はこれから先もそれぞれを支える財産になる。



コロナ禍で、直接のコミュニケーションがしにくい状況の中、「研修会は貴重な機会だった」との意見も。

## 先輩講話 のひとコマ



2019年1月「第4回アスナビ選手研修会」にて

ロンドンオリンピック競泳女子4×100mメドレーリレーで銅メダルを獲得した上田春佳さん(アスナビを通じて2011年4月にキッコマンに入社)は、キッコマンライブキッチン東京でのアスリートを招いてのトークショーを例に、「アスリート社員だからこそできる仕事を考え、提案していきましょう」と参加選手たちにエールを送りました。

## 参加者の声

応援される選手になるための「プロから学ぶ伝え方」でのスピーチワークショップでは、会社での試合結果報告を想定し、グループに分かれて練習しました。最後に参加者全員の前でプレゼンする機会があり、言葉遣いや話すスピードについてなど具体的に指摘してもらって、とても勉強になりました。後日、社内会議ですぐに生かすことができました。

## アスナビ意識調査

### 採用企業とアスリートの“Win-Win”の関係を築く

アスナビでは、採用企業と就職したアスリートそれぞれを対象に、定期的に意識調査を実施しています。集計結果からは、採用企業にとって、トップアスリートの採用が社内に好影響を与えている様子がうかがえます。また、アスナビを通じて就職したアスリートのほぼ全員がアスナビでの入社に満足していることもわかりました。



実態調査のアンケートには、アスリートの採用に対し、好意的な意見が多く集まりました。

### アスリートの声

2021年の調査では、アスリート112名が回答。就職してよかったことは、「自分の活躍や競技に立ち向かう姿勢が、社員に刺激を与えてモチベーションに変化があったと思う」が最も多く58%でした。次いで「自分を応援してくれることが社員の一体感醸成に寄与していると思う」(52.7%)、「企業イメージの向上に寄与していると思う」(33%)という結果でした。

### 企業の声

2021年の調査では、90社からの回答がありました。採用してよかったこと、満足していることは、「応援することで社員の一体感醸成に寄与した」が69%でした。「アスリートの活躍や競技に立ち向かう姿勢に刺激を受け、社員のモチベーションに変化があった」(59.8%)、「企業イメージの向上に寄与した」(50%)などの回答も上位に上がりました。

## アスナビニュース



アスナビで就職したアスリートや採用企業の最新情報をお届けする、2015年創刊のアスナビニュース。アスナビ就職アスリートの競技結果や企業での活用事例、大会での応援の様子やアスナビ説明会の開催スケジュールなど幅広い情報をお届けしています。

## 企業応援

### 三菱電機株式会社

アーチェリー(パラ競技)

**上山 友裕**

スケート/ショートトラック

**小黒 義明**

アーチェリー

**大井 一輝**

水泳/アーティスティックスイミング

**丸茂 圭衣**

体操/トランポリン

**土井畑 知里**

陸上競技(やり投)

**西村 莉子**

各選手の試合情報を社員に伝え、大小問わず社内応援団が集まり現地に駆け付けます。スティックバレーや横断幕を使用し、より多くの応援が選手に届くよう工夫しています。リオ2016大会の際には、所属拠点にて社行会や社内上映会、慰労会を行い、300名もの社員が集まりました。コロナ禍の東京2020大会では、応援特設サイトを開設し、試合速報や本人コメントなどを掲載。社内SNSながら、のべ1万回以上のアクセス、200超の「いいね!」、たくさんのお祝いコメントが集まり、大いに盛り上がりました。



## アスリートの声

私が業務と競技を両立できるのは、会社の配慮や応援があるからだと思っています。今後、オリンピックに出場・活躍して注目された時には、存分に会社の充実したサポート体制などについて伝えたいです。また、応援して下さる社員の方々に良い刺激を与えていきたいです。(土井畑選手)

## 企業の声

リオ2016大会や東京2020大会終了後に、アスリートがメダルを持って本社内をあいさつ回した時は、かつてないほど盛り上がりました。従業員同士が喜びを分かち合い、一体感を感じる機会は通常業務の中ではなかなかなく、改めてアスリート採用の重要性を強く感じました。

## 企業応援



### 株式会社きらぼし銀行

スケート/ショートトラック

**岩佐 暖**

陸上競技(棒高跳)

**澤 慎吾**

採用時には、アスリートに対し「世界を相手に戦っているためあくなき向上心がありながら、礼儀正しく謙虚」という印象を持ちました。入行前の二人が練習場を案内してくれた時には、「人間性がしっかりしていて、社会人としての対応が学生の頃からできている」と感じました。当行では、競技や練習内容、アスリート自身を紹介するイベントセミナーを開催したり、オンラインでのファンミーティング、応援動画の作成などを通じてアスリートを支えています。職員が参加する大会応援ツアーを実施したり、コロナ禍では事務局数名が現地から、社内グループラインで実況中継。65名もの社員が、携帯電話を片手に選手の活躍を見届けました。



## アスリートの声

今後もかけこ教室やトレーニング教室などのイベントを開き、地域のスポーツ振興や社員の健康増進に役立ちたいと考えています。競技を一所懸命頑張る、結果を出すことで、社外へのアピールや当行の知名度向上にも貢献したいです。(澤選手)

## 企業の声

アスリートの応援を通じて、部署を超えた職員同士のつながりが生まれています。夢に向かってチャレンジし、諦めることなく結果にこだわり自己実現していくその姿勢は、当行が求める人材像とも通じます。職員もいつも勇気をもらっています。

## 企業応援 社内・外広報

### 全日本空輸株式会社

ラグビー

**横尾 千里**

フェンシング(フルール)

**柳岡 はるか**

スケート/スピードスケート

**一戸 誠太郎**

アイスホッケー

**床 泰留可**

スケート/ショートトラック

**菊池 悠希**

自転車競技(パラ競技)

**相園 健太郎**

フェンシング(サープル)

**佐々木 陽菜**

陸上競技(短距離)

**山下 潤**

アイスホッケー

**人里 亜矢可**

陸上競技(三段跳)

**山下 航平**

スケート/スピードスケート

**佐藤 綾乃**

水泳/競泳(個人メドレー)

**大本 里佳**

グループ全体でアスリートを応援することが、一体感の醸成につながっています。コロナ禍ではオンラインを中心に応援を実施。オリンピックなどの主要大会では、激励会や報告会を行い、全国のANAグループ社員がオンラインで参加しました。アスリートからは競技への意気込みや報告をはじめ、選手村でのエピソードなど普段はなかなか聞けない話題も飛び出し、交流を深めました。また、日ごろから社内イントラネットに各アスリートの活躍状況をタイムリーに掲載したり、本人が社内SNSに発信したり、世界大会などでの活躍を社内報でも紹介するなど、応援機運を高めています。

## 企業応援

### 株式会社乃村工藝社

パワーリフティング(パラ競技)

**西崎 哲男**

東京2020大会のイベントをきっかけに、自社の社員だけでなく、いろいろな企業からも西崎選手の応援とパラスポーツを盛り上げようというメンバーが集まりました。この応援の輪は、所属・場所・立場を超えて社内外に新たな一体感を生み、参加者やアスリートの視野を広げることにつながっています。オンライン応援会では、それぞれが応援カラーの赤色の物を身に着けたり、中継にあわせてチャットで豆知識を送ったり、大きな声を出したりと工夫して、とても盛り上がりました。



## アスリートの声

自社で設計施工した博物館の展示物の高さやスロープの傾斜などについて車いすユーザー目線でのアドバイスをしました。バリアフリーの基準を満たすだけでなく、「障害を持つ人の気持ちに寄り添うには」という視点に気付いてもらえるきっかけになったと思います。(西崎選手)

## 企業の声

自社で推進するソーシャルグッドな事業活動では、誰もが過ごしやすい空間づくりを大切に考えています。その際、設備面だけでなく、その人の気持ちに寄り添う、一歩踏み込んだ提案をしようという考えが深まっているのは、西崎選手が身近にいてくれるからだだと思います。



## アスリートの声

企業で働くことで、自分自身を客観的に見つめ直す視点を持つことができ、競技力向上にも大きくつながっていると感じます。また、職場で学ぶ組織経営とチーム運営にはリンクする部分が多くあります。日々の仕事から学んだことを、チーム内に取り入れることができている。(人里選手)

## 企業の声

目標を明確にたて、それを達成するために具体的な計画をもって実行していく姿は、社員の励みになります。また達成しなかったときも冷静に自己分析を行い、修正し、それを発信する様子が勇気をもたらしています。

## 企業応援 社内・外広報

### 内田建設株式会社

陸上競技(三段跳)

**森本 麻里子**

社員旅行を陸上・日本選手権の日程に合わせて設定し、そろいの応援グッズを持参して会社全体でエールを送っています。コロナ禍では、代表して社長が応援に駆け付け、社員はライブ配信で観戦するなどしています。東京2020大会選考の際には、出場条件や選手の状況をみんな毎日のように気にかけていました。自社ホームページに掲載している『内田建設ACNews』やSNSでは、活動内容や試合結果を公開。作成や配信は森本選手が担当しています。



## アスリートの声

自分自身の広報活動に加えて、健康リーダーを拝命し、社員の皆さんの健康管理をしています。保健師さんのご指導の下、食事の塩分量や緑黄色野菜の量をチェックしたりしました。また「内田建設健康づくり」社内報を継続して毎月配信しています。(森本選手)

## 企業の声

採用面接での第一印象は「おとなしい子」。しかし、今では社会人としての責任をしっかりと意識し、アスリートとしても当時、挑戦していたボブスレーで日本代表に選出されたことをきっかけに強い意志と自信を持ち、人間性がとても成長したと感じています。

企業応援 社内・外広報



新東工業株式会社

水泳/競泳(バタフライ)  
**安江 貴哉**

水泳/競泳(自由形)  
**難波 暉**

アスリートが夢・目標に向かって頑張る姿は、「社員一人ひとりが自身の夢・目標を描き、その実現のために、会社という道場を使い倒すスキルを磨いていく」、自社の「活人主義」という人事制度に通じています。アスリートの夢の実現と一緒に応援したいという思いから、コロナ禍以前の試合では、大勢の社員がそろいの帽子を着て会場で選手に声援を送っていました。現在でも、社内メールを活用したり社内上映会を開催するなど、社員一体となって応援しています。

企業応援 社内・外広報

ニコンのり株式会社

陸上競技(やり投)  
**佐藤 友佳**

陸上競技(400m・800m)  
**川田 朱夏**

出場試合の近隣拠点より社員が応援に駆け付けたり、コロナ禍ではインターネットのライブ配信を見ながら、声援を送っています。アスリートは、自社HPのブログ編集や執筆を担当しており、自身の試合の結果なども織り交ぜて発信しています。さらに、アスリート個人のSNSでは競技についてはもちろんのこと、会社に関する情報も発信。会社と本人のファンづくりに相乗効果をもたらしています。



アスリートの声

アスリートとしてたくさんの方に応援していただき、その応援に応えたいという気持ちで競技に取り組んでいます。陸上競技は団体競技ではありませんが、社員の皆さんと一緒に喜んだり悔やんだりして下さるので、一人で戦っているのではないんだという気持ちになります。この気持ちこそが、社員として競技を続けることの大きな魅力だと感じます。(佐藤選手)

企業の声

アスリートが出場している試合をお客さまが見てくださって、「いつも応援している」と弊社営業にお声掛けいただくことがしばしばあります。商談とは違う話をさせてくださり、社員として競技を続けることの大変さがたく感じています。

アスリートの声

自分の役割は、会社の名前を背負い競技に携わることで、より多くの方に会社に興味を持っていただくこと、また、競技を通して努力している姿を見ていただくことで、会社を元気づけることだと考えています。競技で培った技術や知識を生かして、今後は健康管理や、苦しい場面での気持ちの持ち方などの情報を社員へ発信していきたいと思っています。(難波選手)

企業の声

社員から「アスリートのSNS見たよ!」だったり、「選手の調子はどう?」と声をかけられることも多く、社内のアスリートに対する関心は高いと感じています。



企業応援 社内・外広報

株式会社オリエンテーション

陸上競技(円盤投)  
**米沢 茂友樹**



陸上競技(ハンマー投)  
**勝山 眸美**

陸上競技(やり投)  
**佐藤 友佳**

陸上競技(400m・800m)  
**川田 朱夏**



アスリートの声

社員の皆さんの健康増進のため、メルマガを配信したり、すきま時間のできる簡単なストレッチのポスターを掲示したりしています。今後は、アスリートとしての知識を生かして、運動を継続するためのポイントや効果的な取り組み方を紹介するオンラインセミナーの開催を予定しています。(米沢選手)

企業の声

採用面接や入社時は、他の学生と同様にビジネススーツに身をまとい、皆と変わらなく感じたのですが、初めて大会に出場するアスリートの姿や表情を見たときにはまるで別人で驚きました。集中力の高さ、真剣なまなざし、競技している姿はものすごい迫力で、応援している私は鳥肌が立ったことを覚えています。

企業応援 社内・外広報

ANAウイングフェローズ・  
ヴィ王子株式会社

水泳(パラ競技)  
**津川 拓也**



職場内には津川選手の等身大パネル、フォトギャラリー、応援横断幕などが飾られた特設コーナーが設置されています。広報と応援担当が中心となって、重要な大会前には、社員からの手紙や千羽鶴、応援メッセージを寄せ書きしたTシャツをプレゼントしたり、応援用のうちわ作り、送り出しイベントをしました。コロナ時にはオンライン社行会で力を送りました。津川選手の「自身の限界を超えるべく日々の厳しい練習に耐え、大きな舞台上で活躍する様子」は、社員ひとりひとりのチャレンジのきっかけとなり、職場全体の前進へとつながる大きな波を起こしています。



津川選手が作成した報告書

アスリートの声

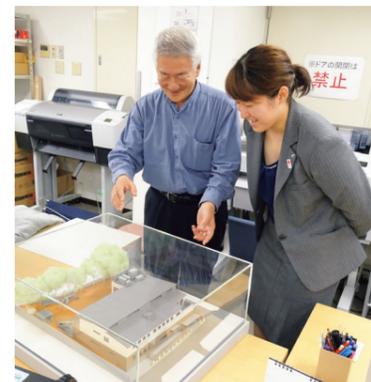
競技を続けているときには孤独を感じたり、気持ちが疲れたりしてつらくなることがあります。そんなときには、仲間と職場で一日の仕事を終えた達成感と心地よい疲労感が、気持ちをリフレッシュして練習へと向かう背中を押してくれます。この好循環が競技でも仕事でも、自分を成長させてくれています。(津川選手)

企業の声

職場内広報誌やSNSなどの発信のみならず、ANAグループ関連の地域活性化や伊丹空港盛り上げの取り組みに参加したり、ゆかりのある地域の学校で講演を行ったりと、活躍の場を広げています。

企業応援 社内・外広報

株式会社久慈設計  
アイスホッケー  
**小西 あかね**



社内ポスターやHPなどに小西選手の情報を掲載・発信。また、小西選手自ら日々の練習内容や遠征時の様子をレポートにまとめて、全社員に回覧しています。平昌2018大会出場時には、社内上映会を行いました。全社員おそろいのフリースを着て、一丸となって応援し、盛り上がりました。

アスリートの声

応援してくれる人が増える、ということが企業で働きながら競技を続ける一番の魅力だと思っています。また、企業に所属し、サポートしていただいている分、アスリートとしての自覚だったり、しっかりと結果を残していかなければならないと責任も感じます。(小西選手)

企業の声

採用当初は社員とアスリートが交流するタイミングがなく、理解しあえていない状況でしたが、日々のレポート発信を続けていく中でだんだんと会話が増えていきました。一番のきっかけは、平昌2018大会です。社内上映会を行い、それによりぐっと距離が縮まり、交流が深まったと思います。

企業応援 社内・外広報

城北信用金庫

陸上競技(走幅跳)  
**清水 珠夏**

テコンドー  
**山田 美諭**

フェンシング(フルール)  
**久良知 美帆**

フェンシング(サーブル)  
**向江 彩伽**

フェンシング(エペ)  
**山田 あゆみ**

カヌー/スプリント  
**大村 朱澄**

スキー/フリースタイル(ハーフパイプ)  
**鈴木 沙織**

アスリートが所属していることで、お客さまに「金融機関なのに、こんなこともやっているんだ」と一目置かれ、新たなファンづくりにもつながっています。マイナー競技の選手は、知名度が低いことが原因で企業への就職がなかなか決まらず、卒業後に競技を続ける環境がなくやめてしまう選手が多いという現状を知り、2015年から支援をはじめました。さらに、女性アスリートは妊娠出産などのライフステージの変化から競技継続が難しい場合が多いことから、女性アスリートを積極的に採用し、応援に力を入れています。



アスリートの声

職員の方や地域の方に、スポーツの素晴らしさやテコンドーの面白さを知ってもらえるように、地域の学校や企業で講演会や体験教室を開催しています。スポーツを通じて金庫や地域を盛り上げられるよう、私ができることに積極的に取り組んでいきます。(山田選手)

企業の声

競技の成績を上げ地域のお客さまに広く認知していただくことはもちろんですが、まずは「職員」にファンになってもらい、お客さまとの会話の切り口としてスポーツやアスリートを活用してもらうことも、大切だと考えています。アスリートが支店に訪問したり職員向けに体験教室を開催し、より身近に感じてもらう活動も積極的に進んでいます!

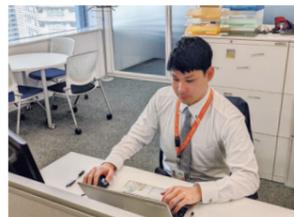
社内・外広報

郵船ロジスティクス株式会社

水泳/競泳(自由形)  
平井 彬嗣

水泳/競泳(自由形)  
小松 巧

社内向けには、活動内容を伝えるアスリート通信を作成したり、朝時間の有効利用として、事務所でできるリラックス体操をオンラインで紹介しました。社外向けに、子供向け水泳教室を実施した際は、アスリートが講師を務めました。



元アスリートの声

アスリートとしての活動で身につけた「物事に対し興味を持ち、学び続ける意識」と、社会人として企業で働く過程で身につけた「事前の相談・先手先手の対応」を大事にしています。企業で働きながら競技を続けることは他のアスリートと比べ、とても大きなアドバンテージだと感じます。(小松さん)

企業の声

小松選手が引退を決断したとき、そのまま会社に残り仕事をしたいという本人の意向に対し、社員の反応はとても温かいものでした。誰もが率先して業務の先輩として彼の育成指導を買って出たのです。アスリートを一人の後輩として受け入れてくれたことが印象的でした。現役時代も引退後も、経営陣、先輩、そして同期と世界中の仲間がアスリートを支えています。

社内・外広報

昭和飛行機都市開発株式会社

カヌー/スラローム  
矢澤 亜季

自らが管理・運営する商業施設で、矢澤選手がゲストとして参加するイベントを開催し、カヌーをはじめとするアウトドアスポーツの魅力などを広く伝えています。特に東京2020大会後にカヌー体験イベントをした際には、子供から大人までたくさんの来場者に喜んでもらいました。



アスリートの声

競技を通して社内の皆さんに思いを届け続けながら、それだけでなく、会社で企画するイベント等にも積極的に参加し、会社を通して社会貢献もしていきたいです。(矢澤選手)

企業の声

選手の競技にける思いや、日々の努力を見ることが、社内の団結につながっていると感じます。特に、オリンピックのような大きな大会では、業務面で直接的なかわりがない社員も一丸となって応援する姿が印象的でした。

ビジネス現場での活躍

キッコマン株式会社

水泳/競泳(自由形)  
上田 春佳

レスリング  
浜田 千穂

空手(形)  
尾野 真歩

カヌー/スラローム  
竹下 百合子

空手(形)  
清和田 雅美

水泳/競泳(平泳ぎ)  
花車 優



元アスリートの声

アスリート時代の食事についてお話することで、商品提案の信憑(びょう)性が高まり、採用いただいた案件が多数あります。また、商談スタート時のアイスブレイクで元アスリートだという話をすると、元気でパワフルなところなど「さすがアスリート」と顔を覚えてもらいやすく、営業マンとしての強みにしています。常にお客様の視点にたち、課題解決につながる行動を心がけています。(浜田さん)

企業の声

アスリートが所属する部署では、彼らが競技で活躍することが、その部署内の活性化につながっていると感じています。また、社外では、アスリートを通じて得意先との接点ができ、関係が深まるケースもあります。

世界の頂点を目指すアスリートの姿が、挑戦し続ける自社の姿勢と共通することから、多くのアスリートを採用しています。食や栄養に関心の高い彼らだからこそ、競技だけでなく「食」を発信する活動なども行っています。また、競技引退後は社員として、アスリートの経験を生かして活躍しています。レスリングの元アスリート、浜田さんは、食材卸企業への取り組みと新規深耕開拓を務め、いままで培ったあいさつ、礼儀、スピード感を意識しながら粘り強く業務を進めています。



ビジネス現場での活躍

東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社

近代五種  
黒須 成美

体操/新体操  
松原 梨恵

スケート/ショートトラック  
小池 祐奈

スキー/フリースタイル(スノーボード)  
富田 るき

アスリートは、会社の健康経営を推進する「ウェルビーイング大使」として、自身の日々の練習メニューから一般社員でも取り組みそうな体操などの動画を作成したり、身体のプロとして、簡単で身近なところから改善できるスキルを伝える活動を行っています。また、新卒入社社員向け講演会では講師を務めることもあります。



スケート/ショートトラック  
桜井 美馬

スケート/フィギュアスケート  
大庭 雅

水泳/アーティスティックスイミング  
柳澤 明希



社員に向けた大会の結果報告の様子

アスリートの声

競技で取り入れているトレーニングや、デスクワークの疲れなどを解消するエクササイズ動画を作成し、社員の皆さんに提供しています。企業に所属することで、多くの方が自分のことを応援し、支えてくださっているということを感じることができています。競技意欲が高まることも、非常に心強く思います。(柳澤選手)

元アスリートの声

何事にも前向きに取り組むことや、最後までやり切ることなど、競技で培った力はこれからの仕事にも生かすことができると感じています。今までたくさん応援していただいたので、今度は業務で恩返しできたらと考えています。そして、アスリートが働きやすい、より良い環境を作りたいです。(松原さん)

企業の声

不慣れな業務でも、高い吸収力で前向きかつ丁寧に取り組む姿にいつも驚かされます。世界と戦い、目標に向かって努力しているトップアスリートならではの感覚を感じています。

社内・外広報 ビジネス現場での活躍

株式会社内田洋行

陸上競技(円盤投)  
辻川 美乃利

年4回発行する社内報「Uchida Family」に辻川選手のコーナーを設け、練習や競技会の活動報告を行っています。社内グループウェアでは、タイムリーな活動報告や競技会のLive配信告知、写真掲載も行い、社員が応援メッセージを送るなど、双方の交流の場にもなっています。また業務では、大学にICTソリューションや施設設備、機材等の販売を行う営業部門に所属し、提案書や見積作成のサポートに励みながら、先輩社員と一緒に客先へ訪問することもあります。



アスリートの声

競技で活躍し社名を広く知ってもらうことに加え、実際の業務においても営業補助として部署の方々に必要とされる存在になりたいです。さらに、今後は試合結果だけでなく普段の競技活動の様子も発信していきたいです。社内の皆さんにより興味を持ってもらえるようにしたいと考えています。(辻川選手)

企業の声

限られた時間の中で、わからないことは積極的に調べたり先輩社員に質問したりしており、仕事への興味関心を持って自らの意見もしっかり発言しながら取り組んでくれています。競技活動において養われている「自ら物事に取り組む意欲や姿勢」が仕事でも大いに発揮されていると感じます。

社内・外広報 ビジネス現場での活躍

シバタ工業株式会社

陸上競技(走幅跳)  
秦 澄美鈴

当時急成長を遂げていた秦選手を「ダイヤモンドの原石」のように感じました。身近な競技でありながら、強いスポットライトが当たりにくい走幅跳という競技と、ニッチなゴム製品を扱う当社との共通点があり、ともに成長、発展し、スポットライトを当てていきたいというお互いの気持ちが重なりました。現在は、当社で製造・販売するレインシューズの商品モデルを務めるほか、テレビやラジオ、雑誌などのメディアに出演し情報発信を行っています。また、小学生を対象とした陸上教室に講師として参加し子供たちに陸上競技の楽しさを伝えるなど、活動を広げています。



アスリートの声

アスリートとしてまずは競技で結果を残すこと、そして「走幅跳の秦といえばシバタ工業」となるよう努めていきたいと思っています。競技とは別の社会でコミュニティを持ち、視野が広がるような発見があることや他愛もない話をしてリフレッシュできることに、魅力を感じています。(秦選手)

企業の声

エントランスにメダルやトロフィー、ユニホームを展示しており、お越しいただいたお客さまとの話題のきっかけになっています。また本人や会社へのメディア取材、会社のWebサイトアクセス数が増えてきたことから、多くの方に弊社を知ってもらう機会になったと感じています。

## アスリート採用事例

### 社内・外広報 ビジネス現場での活躍

#### 株式会社ウィザース

陸上競技(砲丸投) 陸上競技(混成競技) 陸上競技(円盤投)  
**森下 大地** **奥田 啓佑** **川口 紅音**

運営している通信制高校「第一学院高校」生徒に向けた「夢授業」は、大人が働く楽しさを話し、前向きな未来をイメージしてもらう講座です。アスリートだからこそ語れる、自己成長実感や夢を持つことの大切さを伝えるべく、この講座の企画や実施をアスリート社員たちも積極的に担っています。また競技活動の報告や、Twitter、社内slackなどアスリート社員自身による活動発信、通信制高校在籍生へのポスター作成なども行っています。



#### アスリートの声

企業という場所に所属することで新たに応援して下さる方々とつながり、競技活動のモチベーションが上がりました。企業で「働く」ことにより、競技活動では身につけられない社会人としての知識も学ぶことができるのが魅力です。(森下選手)

#### 企業の声

アスリートたちを採用してから、競技指導者の方からのアスリートのご紹介や採用に関するお問い合わせが増えました。自社の目指す成長支援や事業が、少しずつ伝わっているのを感じています。

### ビジネス現場での活躍

#### 株式会社バンダイナムコビジネスアーク

アイスホッケー  
**中村 亜実**

2018年にアスナビを通じて入社した中村さん。現在は競技を引退し、自社およびグループ会社の新入社員向け研修、階層研修、選抜研修などの企画運営、人材育成を担当しています。仕事を通して、課題解決やゴールまでのプロセスを考えるなど、競技に生かせるスキルを学ぶことができたといいます。また競技外の方々と触れあうことで、社会を知り、自身の視野が広がり、リフレッシュにもつながったそうです。2022年4月よりグループ会社へ出向し、スポーツとエンターテインメントを掛け合わせたスポーツビジネスの開発にチャレンジします。(2022年4月より株式会社バンダイナムコエンターテインメントへ出向)



#### 元アスリートの声

現役時代に培った、あきらめずに貪欲に目標達成に向かう姿勢や物事を推し進める推進力、物怖じせずにチャレンジできる強い気持ちは、いまの仕事でも生かしていると感じます。常に成長し続けることを目標に、依頼された仕事に対して、求められていることにプラスして、付加価値や自分の色を乗せられるよう意識しています。(中村さん)



### 社内・外広報 ビジネス現場での活躍

#### 株式会社東京海上日動キャリアサービス

陸上競技(400mハードル) 陸上競技(棒高跳)  
**井上 駆** **石川 拓磨**

採用のきっかけは、トップアスリートに社会でも活躍できる能力があるの、間違いないと感じたからです。彼らの競技力のみならず、広告塔的に扱うのではなく、事業そのものを支えていく人材に成長させていくことで、社内においてもアスリートの存在が良い影響や効果を与えると期待しています。社員にとっては「身近な担当者がトップアスリート」という環境により、応援意欲が高まり、良い循環を生んでいます。



#### 企業の声

ここぞという時の集中力と、競技同様に成果・結果への意識の高さは、アスリートならではのと感じています。

#### アスリートの声

企業サイト管理業務のリーダーを任せていただいているため、アスリートとしてだけでなく、ビジネスパーソンとしても成長する場を与えてもらっていると感じています。仕事をする上では、相手軸に立った業務を心がけています。相手軸を意識することで視野が広がり、今まで意識していなかったことや新たな発見があるので、すべての物事において大切な視点だと考えています。(井上選手)

#### アスリートの声

広報やブランディング戦略業務に携わり、社内報においては、リーダーを任せていただきました。表現の幅を広げ、コンテンツの改善を図りながら、セルフプロデュースの観点でも励んでいきたいです。アスリート社員は練習もして、仕事もします。限られた時間の中で業務を行うのは簡単なことではないので、効率良くするために、スケジュール管理の徹底を心がけています。(石川選手)

### ビジネス現場での活躍

#### 阪神酒販株式会社

陸上競技(三段跳)  
**梶川 洋平**



現役時代は、販売や営業などの数字で成果が測れる業務を担い、労働時間の長さではなく、工夫と効率化で成果を上げるよう自発的に考え動いていました。引退後は、より重要な事業の中核となる業務管理を行っています。アスリートを採用した当初は、前例のない受け入れについて社内でも多くの議論が交わされました。それにより社員に多様性への配慮や利他の商売を心がける視点が身につく、結果的に組織の成長につながっています。

#### 元アスリートの声

競技中心の生活では無意識のうちに視野が狭くなってしまうと感じていましたが、企業で働くことにより、多種多様な人材との交流と職務を通じて視野が広がることが魅力でした。仕事の取り組みに柔軟性が出てきたことから、競技と仕事で結果が出てきたように思います。(梶川さん)

#### 企業の声

自発的な行動力、自立した思考力、高い成長意欲はまさに「アスリート魂」だと感じます。業務に対しそれらが遺憾なく発揮されています。本人が何かを望んだときに、その機会を十分に提供できる会社、組織でありたいと思っています。

# アスナビ NEXT

「アスナビNEXT」は、引退後のトップアスリートが次のステージへスムーズに移行することを支援する制度です。競技に集中し、引退後の自分をイメージしづらくなりがちなアスリートが、現役のうちからキャリアデザイン力(将来を構想する力)を高められるよう、キャリアカウンセリング、キャリアデザインセミナーなどを実施。働くことのイメージや、社会に対する理解を深めるとともに、競技生活で培ってきたさまざまな能力をセカンドキャリアでも存分に発揮できるよう支援しています。



バレーボール男子元日本代表

**諸隈直樹さん**  
 Morokuma Naoki  
 Profile

法政大学卒業後、富士フィルム・プラネットに入団するも、廃部のため翌年、豊田合成トフェルサに移籍。2000年から2005年まで、バレーボール男子日本代表チームに選出される。2008年に現役を引退し、インストラクターを派遣する会社を起業。2009年、バレーボール男子日本代表チームのコーチに就任。2012年に引退後、プロゴルファーに挑戦。2018年アスナビNEXTを利用してデサントジャパン株式会社入社。



豊田合成トフェルサの主力としてVリーグで活躍していた頃の諸隈さん。「結果がすべてのストイックな日々が続いた選手時代。引退後、いかにチームをサポートするか考え抜いたコーチ時代。そして、「できない人」の気持ちに嫌というほど味わったプロゴルファー挑戦時代。そのどれもが企業で生きるはず」と語ります

### 自分が企業で活躍する姿を見せることでどこでも輝けることを感じてもらいたい

バレーボール男子元日本代表の諸隈さん。引退後は同代表コーチを務めたり、プロゴルファーを目指したりと精力的に活動する中、「東京2020大会を控え、東京でスポーツ関係の仕事に就きたい」と決意します。アスナビNEXTを通じて、スポーツ用品メーカーのデサントジャパン株式会社に採用されました。「現役時代からウェアやグッズの提供などでお世話になっていたメーカーであり、話をいただいたときは大変な縁を感じました。JOCが入っているという安心感もありました」と諸隈さん。「トップアスリートになるほどその世界しか知らず、それが引退後の不安につながっているのも事実です。後輩たちに『他の世界でも同じように輝けるんだ』と感じてもらえるよう、自分自身が企業で活躍し、努力する姿を示し続けていきたいと思えます」と使命感を抱いています。

### ひとりでは気付かなかった自分自身の価値 企業で働くためのステップにつなげてくれた

自転車競技でオリンピック出場経験もある前田さん。2018年秋の全日本選手権スプリント種目で10連覇という偉業を達成し、その優勝インタビューで引退を発表しました。セカンドキャリアについて具体的なイメージのない状態でアスナビNEXTに相談する中、「引退後もスポーツの世界に携わりたい」というありたい姿を描き、当時2021年に福岡での開催が決まっていた世界水泳に関連する仕事ができる株式会社電通九州に就職を決めました。アスナビNEXTを利用して、「自分自身だけでは見えない角度や方法で、自分の適正や気付いていない能力、弱点を客観的に教えてもらえました。アスリートが持つ可能性を最大限に鑑みて、次へのステップを一緒に考えてくださり、自信をもって一歩を踏み出すことができました」と振り返ります。



自転車競技元日本代表

**前田佳代乃さん**  
 Maeda Kayono  
 Profile

鹿屋体育大学在学中にロンドンオリンピック代表選手に選出され、卒業後は京都府自転車競技連盟所属選手として活動。2018年9月、全日本選手権自転車競技大会トラック種別女子スプリント種目決勝で10連覇を達成し、引退。アスナビNEXTを通じて、2019年2月に株式会社電通九州に入社。世界水泳をはじめ、スポーツ関連業務の担当営業を担い、選手を支える側に立っている。



写真提供: more cadence

高校時代から全日本自転車競技選手権をはじめ、アジア大会、世界大会など世界を舞台に活躍。現在は裏方仕事を担当する側になり、「初めて1つの大会にこんなにも大勢の人が関わり、準備し、ようやく選手たちを会場に迎えていることを知りました。チームスタッフはもちろん、スポーツ業界そのものを支える人あつての選手生活でした」と語ります

### サポート施策



#### キャリアカウンセリング

競技だけに打ち込んできたトップアスリートたちは、自分の職業適性や興味はどこにあるかなどに気付かず、言語化できないケースがあります。そこで、職業適性検査などを実施し、客観的なデータをもとに、マンツーマンの「キャリアカウンセリング」を行いながら、支援していきます。



#### キャリアデザインセミナー

多くのアスリートは将来に不安を抱えています。JOCキャリアアカデミーでは、「キャリアデザインセミナー」として、企業の第一線で働くアスリートの講話や、自己分析を深めるワークショップなど、未来のありたい姿を自分自身で描くための力をつける研修会を多数実施しています。